

はたちの夢

成人代表 荒川 礼奈さん



本日は、私たちのためにこのような盛大な式典を開いてくださり、誠にありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉をいただきました町長様はじめ、ご来賓の方々、ご臨席を賜りました多くの皆様に、新成人を代表して心より感謝申し上げます。

さて、私たちは二十歳を迎え、すでに職業に従事している者や、学業に励んでいる者など立場は様々ですが、一人一人が自分の行動に責任を持ち、社会人の一員として常に向上心を持って前進する覚悟しております。私のはたちの夢は「福島県の小学校教員になる」ことです。私は現在、県外の大学に通っており、自分の

夢を叶えるために日々勉学に励みながら様々な経験をさせていただいたております。

故郷を離れ、外から見た広野町や福島県を見て、広野町に対する自分の想いを認識することができました。小学校教員を志すようになったきっかけは小学生の時に、この夢を思い描いてから東日本大震災のことと照らし合わせて考えるようになりしました。また、福島県で教員になりたい理由がこの経験です。

当時小学一年生だった私たちは、この広野町での日常や当たり前の生活を奪われました。自分の家には帰れず、仲が良かった友達と次いつ会えるか分からないという状況下に置かれ、不安に襲われたことを覚えています。県外に出てから、この経験を人に伝えることが増えました。私もそれ以外の人も過去の出来事としてだんだんと想いが薄れていくのを感じています。しかし、この経験から町全体が前に進むためにも忘れずに考え、未来をより明るくしていく必要があると私は考えています。

はたちを迎え、大人の仲間入りをした私たちですが、地域住民の皆様をはじめ、家族や友人に支えていただき、ここまで成長することができました。様々な方への感謝の気持ちを忘れず、生まれ育った広野町に貢献することができるよう尽力

はたちの夢

成人代表 坂本 侑汰さん



本日は、私たちのために、このような盛大なはたちを祝う会を挙行していただき、誠にありがとうございます。また遠藤町長をはじめご来賓の方々にご臨席いただき、お祝いや激励の言葉などいただきました。新成人を代表して心より御礼申し上げます。

私のはたちの夢は、シンプルに一人前になることです。

私は高校卒業後に就職し社会人になり宮城県で一人暮らしをしています。実家を離れ一番強く感じたことは「親のありがたみ」です。仕事から帰ってきてどれだけ疲れていたとしても洗濯や食事の準備をしなければなりません。自分は一人

していききたいです。最後にになりましたが、本日の式典にご尽力いただきました関係者の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。新成人代表の挨拶とさせていただきます。



暮らしを始めるまで家事を一切やってこなかった。家族全員の家事を毎日仕事終わりに行く親の凄さを身に染みて感じました。高校の時、毎日「飯やお弁当、きれいにたたまれた洗濯物が自動で出てくる環境を当たり前と思っていた自分が恥ずかしくなりました。

この二十歳で私たちは、多くの人に支えられながら成長することができました。時にはぶつかりながらも共に歩んできた仲間たち、時には厳しく指導してくださった先生方、いつも近くで見守ってくださった地域の方々、たくさんの愛情を注いでくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは、二十歳という大きな節目を迎えましたが、大人としては、まだまだ未熟です。学生として勉強中の人、すでに就職をして仕事をしている人、まだ将来の夢を迷っている人など様々です。おかれている立場は違いますが、それぞれが自身の目標に向かって一步一步歩み続けている最中です。これからも、成人として成長し続けることをここに誓い、成人代表の挨拶とさせていただきます。